

# なにわ たいむず

No.114

## contents

- 01 news / 管理者うるしまのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 ブラマエダ / アトリエナニワ
- 04 Case Book
- 05 ジムインこいけのなんでも日記  
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

# お盆に花火大会を行いました

季節はもう秋・・・ですが、8月13日（火）、お盆の花火&かき氷納涼大会をライフサポートななわで行いました！1週間前に利用者さんたちと一緒に駅前のスーパーに花火を買いに行き、またかき氷の器具をレンタルしておくなど、入所支援のスタッフが中心になって準備を進めてくれました。

当日は、お昼にかき氷を食べて、夜に花火を楽しみました！お盆の花火大会、なにわの里の夏の風物詩となってきました。利用者さんたちにとって、夏の楽しい思い出になっていけば嬉しいです。

(小池)



## NEWS

### きつずが柏原市の『中核機能強化事業所』に認定 されました(9月)

きつずサポートななわ(児発・放デイ・保訪)が柏原市より「中核機能強化事業所」として認められ、この9月から事業を開始しています。

今年度の報酬改定で新たに設けられたもので、市内の中核的な役割を果たす事業所を「中核機能強化事業所」と位置づけ、専門人材を配置して、自治体や地域の障害児支援事業所、保育所等を含む関係機関等との連携体制を確保しながら、児童とその家族に対する専門的な支援及び包括的な支援の提供に取り組むことが求められています。

きつずサポートななわは国が求める役割をすでに果たしており、スムーズな認定となりました。他に全国で認定された事業所の例はほぼ聞きません。これまできつずを支えていただいたたくさんの方のおかげです。引き続き、柏原市に住む子どもたちやそのご家族に適切なサービスが行き届くよう、努めたいと思います。

(漆嶋)

## 管理者のつとめ

### 中核的人材養成研修

前回のヨモヤバナシのタイトルが「2024年度が始まりました」でしたが、気付けば半年が過ぎました。先日も別の入所施設の管理者の方と話をしていた、やるべきことがあっても、なんやかんや(コロナ感染や職員の退職、その他トラブルなど)があると、ついつい先延ばしになりがちだよねと反省していました。なんやかんやに影響されず、日々完璧にこなす人間になりたい今日この頃です(絶対無理ですが)。

今年度、国が実施している「中核的人材養成研修」に自分が参加しています。各施設や事業所内で行動障害の状態を呈する方への支援の中核を担う人材を育成することが研修の目的です(研修を受講することで、加算が増えます)。この研修は今年度から正式に開始されましたが、まだ受講枠が少なく、府から1名しか参加できません。なにわの里は、これまでの実績が評価され、その1名の枠に入ることができました。正直、これまでの経験の自負もあり、サクッと終わるだろうと考えていましたが、始めてみるとそのボリュームがとんでもなく、ついて行くのに精いっぱいです。この研修を受講したからといって支援がばっちりと言っわけにはいかないでしょうが、人材を育成する上で大切な視点が網羅されていますので(なにわの里の方向性とは少し違いますが、今後の広がり期待したい)と思います。

最近、ブレネー・ブラウン著の『本当の勇氣は「弱さ」を認めること』という本を読みました。その中でルーズベルト米大統領の演説が「闘技場に立つ人」というテーマで紹介されています。「ただ、批判するだけの人に価値はない。一中略一称賛に値するのは、実際に闘技場に立ち、誇りと汗と血にまみれながらも勇敢に戦う人だ」という一節があります。自暴自棄になれということではなく、倒れる怖さを抱えながらも戦いの場に立つことに意義があるとのこと。「怖さ」の一つに「恥」があります。「恥」を恐れ、事あることに逃げ出したいと感じている自分を勇気付けてくれる本でした。皆さんも関心があればぜひ読んでみてください。気付きの一冊になること間違いなしです。



## おすしとフライ

夏は主人の仕事が忙しいので旅行などには全く行きませんが…

唯一毎年していることは、私の実家で姉の家族と一緒に食事をする事です。

メニューはお寿司・フライ・ポテトサラダ・そうめんにおみそ汁です。このメニューは本人のこだわりで絶対に変更できません！

一度片付けが大変だからと紙皿にしたならそれもこだわりになってしまい、以降ずっと紙皿になってしまいました。

いろいろ面倒ですが、喜んでたくさん食べてくれるので嬉しいです。

by りん

### 担当者コメント欄

すっかり季節は秋になり、朝晩は冷え込むくらいの日も出てきました。振り返ると、今年の夏は本当に暑かった！！でも…あるいは、だからこそかかせないイベントについて教えていただきました☺季節に応じた、それぞれの家庭の過ごし方、ご紹介させていただきます！

(石谷・林)

## 今回のテーマ

夏にかかせない、我が家のイベント



お母さんが日々感じていることを  
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

## ひたすら流れてます！

夏になるとかかせないのは、プールですかね～… 子どもたちは、とにかくひたすら、流れています(笑)流れるプールでずっと。

大人一人で子どもたちを連れていくのは大変なので、主人の休みに合わせてですが…ほぼ毎週のように。

行く場所は、「今週はどここのプールに行く??」と話し合うことが多いです。近隣のプールはだいたい行っていると思います。

一番のお気に入り、奈良にあるファミリープールですね！子どもたちにとって、“流れる”には、最適なプールみたいです(笑)

by ゆいひま





## 理事長マエダが、ブラブラするコーナーです



### 「愛光園」さんをブラブラ



はじめりました「ブラマエダ」。今回は八尾市にある愛光園の山本本部長をブラブラと訪ねました。

マエダ 「こんにちは。色々とお世話になってます」

山本本部長「私たちは、なにわの里さんと違って、元身体障害者療護施設なので、身体機能の維持や回復という部分においては、ソフト・ハード両面で少しはお役に立てる部分はあるかと思えます。対応させていただいた利用者さんも、施設に馴染み、皆の人気者になっています」

マエダ 「私たちは知的障害、自閉症支援の部分では少しは経験と知識の蓄積があると思います  
が、これからはお互いの得意な分野でカバーし合っていくことが大切なんじゃないかな」

山本本部長「そうですね。元知的障害者更生施設に比べ、元身体障害者療護施設は在宅サービスの拡がり、入所ニーズの減少が顕著で、対象利用者も重複障害の方を中心に、三障害に拡がっている傾向にあります。専門性を共有いただければ助かります」

マエダ 「話は変わって人材の確保・定着の部分では如何でしょうか？」

山本本部長「昔前に比べて、百倍、難しい状況になってきていると感じます。労働者の意識も大きく変化していますし、外国人の採用についても本格的に進めているところです」

マエダ 「国籍等々に関係なく、障害者福祉の魅力をどう伝えていけるかが問われているんじゃないかな。法人間の連携などは取り組まれていますか？」

山本本部長「まだまだこれからですが、複数の法人で共同で取り組む事業を開始しました。これからの時代、私たち中小の社会福祉法人は、様々な軸で連携していく必要があると思います」

今回も、超々コンパクトにまとめさせていただきました。山本本部長ありがとうございました。

## アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

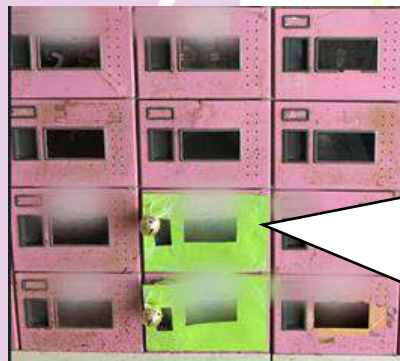
### 【ツールの説明】

- ・ 下駄箱の場所を「見た目」、「手触り」、「音」で伝えられるように、鈴と色紙を付けた。

### 【ツールのメリット】

- ・ 加齢などにより、目が見えにくくなった方でも自分の下駄箱の場所が分かる。

### 『 下駄箱の目印 』

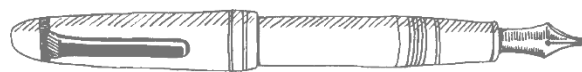


鈴と色紙

手探りで探した際に鈴が手に当たって下駄箱の位置に気づくことができる。

また、他の下駄箱と色が全く違うことからより気づきやすい。

# Case なにわの里 支援の実践紹介 book



被災地からの利用者さんを受け入れて  
～過ごしていく中での状態の変化について～  
入所支援 2 係 西嶋光



## 【はじめに】

2024年1月1日、石川県の能登半島で大きな地震があったことをテレビで知りました。その時は、被災地のことや防災の意識について家族や職場の同僚と話すことはありましたが、深く考える機会はありませんでした。二週間後、なにわの里のスタッフが被災地へ応援に行ったことを知りました。同じ職場の人が被災地へと行ったことで、自身にも何かできることはないかを考えるようになりました。

その後、建物が半壊した施設から、1名の利用者さんが一時的になにわの里の入所施設を利用することが決まりました。今回は、半壊した施設から来た利用者Aさんが、なにわの里の入所施設で過ごす様子や状態の変化についてお伝えしたいと思います。

## 【Aさんの紹介】

Aさんは石川県にある障害者支援施設『S』から来た25歳の男性で、パソコンを使って絵を描いたり、画像の検索や動画の視聴が好きな方です。好きな活動からの切り替えが難しく、手持無沙汰になると自身の指や唇の皮をめくったりします。ストレスが高まれば自分の顔を叩いたりすることもあります。また、気になることがあればわずかな隙間から施設を抜け出して目的の場所まで行くこともあります。

Aさんの受け入れの担当を自分がすることになり、本人の情報を初めて聞いたとき、なにわの里でこれまでのような生活を送ることができるのだろうかと不安を感じました。

## 【受け入れ準備について】

Aさんの過ごし方についてチームで話し合い、以下の内容を決めました。

### 《スケジュールの設定》

Aさんのアセスメント情報として、文字や数字、時計の理解があるとのことだったので、1日の流れをAさんに伝える手段として、時間や活動を記載したスケジュールを使用することにしました。(写真①参照)

### 《Aさんが好きな活動について》

活動の切り替えが難しい方ですので、パソコンを使った活動は時間を区切った方がいいという意見がありました。しかし、Aさんはこれから知らない場所で過ごすこととなります。不安やストレスなどを感じ、手持ち無沙汰の時間があると過度に指や唇の皮をめくったりする可能性があります。Aさんの生活の安心・安全を優先した結果、食事や入浴の合間の時間などはパソコンを自由に使えるようにしました。

### 《コミュニケーションの取り方について》

Aさんは文字の理解があるので、ホワイトボードと水性マジックを使い、文字を介したやり取りを行うことにしました(この方法は石川県の施設でも行っていました)。



写真①

## 【Aさんがなにわの里に来てからの様子】

### 「初日」

石川から大阪までは車で約7～8時間の移動でしたが、車内では落ち着いて過ごしていました。途中のパーキングでお菓子やアイスを自分で選んで購入したのですが、なにわの里に到着するまでいくら促しても食べませんでした（アイスが溶けないかひやひやしたとのこと）。このことから、本人なりの理解やこれまでの経験が本人の行動に影響していることがわかりました。Aさんは到着するとすぐパソコンを使って動画を見始めました。スタッフが自己紹介するとこちらに体と顔を向け会釈をしてくれました。

その日の夕食や入浴の前に、スケジュールに書かれている時間と活動をスタッフが指差し、次の活動を伝えました。パソコンを使っていたので、切り替えは時間がかかりましたが、スタッフの促しに応じて自分でパソコンの使用を終え、次の活動に移ることができました。就寝前に本人がパソコンをスタッフに預ける予定でしたが、時間になってもなかなか返してもらえませんでした。パソコン回収後にスタッフがその場を離れようとする、Aさんがホワイトボードに石川県の施設『S』の名前を書きました。スタッフがホワイトボードに「なにわの里に住むことになりました」と書くと本人は小さくうなずき、ベッドで横になりました。

### 「2日目」

多くの時間、部屋でパソコンを使って過ごしていました。パソコンで遊んでいた“間違い探し”を一緒にするようスタッフを誘ったり、漢字の読み方についてホワイトボードを使って聞いてくることがありました。初日とは違いAさんからスタッフに関わりに来ることが増え、他者とやり取りすることが好きな方だと感じました。2日目以降は石川県の施設『S』の名前をホワイトボードに書くことはありませんでした。

ただ、スケジュール通りに動けず、時間が過ぎてもパソコンを使い続けることがありました。その都度声をかけると切り替えることができました。

### 「1か月後」

スタッフが促さなくても、自分で時計を見て、スケジュール通りに行動することができるようになりました。予定の変更があれば、スケジュールを書き換えることで応じることができました。パソコンの使用が保証されているとわかったことが、切り替えがうまくいった理由の一つかも知れません。

この頃から、他の利用者さんと一緒にドライブに出かけるようになりました。ドライブ中、ホワイトボードを使って隣に座ったスタッフの名前を聞いてきたり、自分が欲しいものや外出先で食べたいものを教えてくれたりしました。

### 「半年後」

最近ではスタッフを見かけると、ホワイトボードを部屋まで取りに行き「欲しいものを購入する日をカレンダーに記入して欲しい」と伝えに来ることが多いです。初めて一緒に外出する時、その数週間前にカレンダーに予定を書いて伝えてから、カレンダーを手掛かりにするようになりました。

Aさんがなにわの里に来た初日はスタッフに関わることは少なく、以前暮らしていた場所との違いに戸惑っている様子でしたが、日が経つにつれスタッフに関わる頻度が増え、笑顔も多く見られるようになりました。

## 【まとめ】

Aさんの受け入れが決まり、担当スタッフとして様々な悩みや不安がありましたが、Aさん自身も生活環境の違いによる不安を感じていたと思います。日が経つにつれ、Aさんの変化を一番近くで見ることができ、自分もまた不安や悩みが減りました。

石川県の能登半島の地震では、自分は何もできずにいましたが、被災された利用者さんをなにわの里で受け入れることが決まり、その方のすぐ側で生活のサポートをする機会を頂きました。間接的にですが、被災された方への支援に協力することができたことは、自身の喜びとなりました。

今後もAさんの支援を通じて、被災された方々への応援ができればと思います。被災地のすみやかな復興を願いたいと思います。



最近、パソコンからタブレットに変更しました

# ジムインこいけのなんでも日記

## 「一番うれしかったとき」

先日、次女(小6)と二人でリビングにいる時に、「お父さんが生まれてから今までで一番うれしかったときはいつ?」という質問をもらいました。次女は時折こういった一休さんの禅問答のような問いをくれます(笑)。うーん、いつだろう...と考えている中で、頭に浮かんだのは、2年前長男が生まれたとき、長女と次女と僕で過ごした一週間のことでした。

長男が生まれることになった日の午後、次女が発熱と学校から電話があり、通院の結果、次女はコロナ陽性。濃厚接触者である妻を産婦人科が受けて下さり、その日の夜に長男が生まれました。そして、次の日から長女・次女・僕の3人の隔離生活が始まりました。

辛い症状はそこまで重くなく、翌日にはかなり回復していました。3人で協力しながら料理や洗濯をし、一週間後に我が家に加わる長男へのウエルカムボードを作ったり、アマゾンで漫画を買って回し読みをしたり...。これまでに感じたことのないような、ゆっくりとした、穏やかな時間でした。

学生時代は勉強、社会人になってからは仕事、周りも、また自分自身も「速く」「強く」「大きく」を求める中で、生きるペースを緩めることは難しい時が多いなと思います。でも、僕が幸せを感じるのは、得てしてペースを緩めた時でした。生きるペースを緩めるというのは、自分が本当に大切にしたい価値観に触れることでもあると思います。隔離生活の一週間、僕は娘たちとゆっくりとした価値観を共有しながら過ごせたのだと感じています。父と娘たちのゆっくり隔離期間は、今も僕を支えてくれているように思います。

## なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2024年6月1日~8月31日

(敬称略・順不同)

### (法人の部)

アトリエらくだ 工和工業株式会社 特定非営利活動法人けいき 株式会社加美塗装工業所  
岩崎商店 イワタニ近畿株式会社

### (個人の部)

合田 裕章	坪田 世津子	小島 純子	井上 政二	山下 孝子	渡邊 和恵	佐々木 久子
森 洋子	町野 隆	神田 佳子	濱田 由紀子	松田 紀弘	松田 ちか子	安井 喜誉嗣
北浦 康司	端谷 克彦	宮村 昭弘	中谷 孝	片岡 泰彦	白根 英樹	武政 英雄
佐藤 友子	大西 英樹	松尾 保隆	小畑 千ヅ子	村松 克己	小畑 貴央	井田 博
車谷 二三夫	野中 マサ子	宮崎 京子	井形 正信	久保 信代	川島 白鶴	森 克雄
延田 京子	前川 阿紀子	鈴木 曠二郎	坂本 信晴	松田 直也	白根 勝雄	四方 世津子
川島 伸也	森 陽介	瀬戸 俊之	戸田 和歌	小野 雅司	井上 愛子	藤原 昌
肥塚 泰子	井堂 光	松田 恭一				

# STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— Sさんが福祉のお仕事、またなにわの里でのお仕事を選んだのはなぜですか？

第一志望としては建築関係の仕事を考えていたのですが、うまくいかず、次に福祉のお仕事を考えました。障害のある人たちとの関わりが、自分の家族との関わりに役立つのではないかと思った…というのが理由のひとつです。そんな中で、なにわの里の求人が学校に届いていて、見学に行くことになったのがきっかけです。初めての見学の時、かなり距離間の近い利用者さんがおられて…

— 怖いな…と思わなかった？

それはそんなに思わなくて、この方の距離感なんだろうな、という感じでした。

— そうだったんですね。では、2023年4月に入社して1年半ほどが経ちましたが、大変だったな、しんどかったな、と思ったことはどんなことですか？

働き始めたときは先輩と一緒に現場に入りますが、ひとり立ちして初めての夜勤の日はとても不安な気持ちだったのは覚えています。

あと、家が遠いので、通勤が大変です。早出（7時からの勤務）だと、5時43分の電車に乗らないといけなくて。慣れない最初の頃は、3か月に一度くらい体調を崩していたように思います。

— 1年半の中で嬉しかったこと、楽しかったことはどんなことですか？

スタッフ同士で話をするのが、自分の中では楽しみです。先輩スタッフと話すことが多いのですが、仕事のこともやさしく教えてくれて、ありがたく思っています。

第114号

2024年10月20日発行

発行責任者 漆嶋真一

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail [naniwa@naniwanosato.jp](mailto:naniwa@naniwanosato.jp)

HP <http://naniwanosato.jp>



なにわの里Instagramページ開設しました！  
上のQRコードからご覧ください！